

愛知教育大学大学院

学生の確保の見通し等を記載した書類

参 考 資 料

資料 1	大学院の入学者・志願者数の推移……………	1
資料 2	実績（5年間）に基づく入学見込数……………	5
資料 3	修士課程・教育学研究科 専攻別教員就職者数……………	6
資料 4	教職大学院に関するアンケート結果……………	7
資料 5	要 望 書（愛知県教育委員会教育長 他）……………	12
資料 6	アンケート様式……………	16

1. 大学院の入学者・志願者数の推移

①入学者数の推移

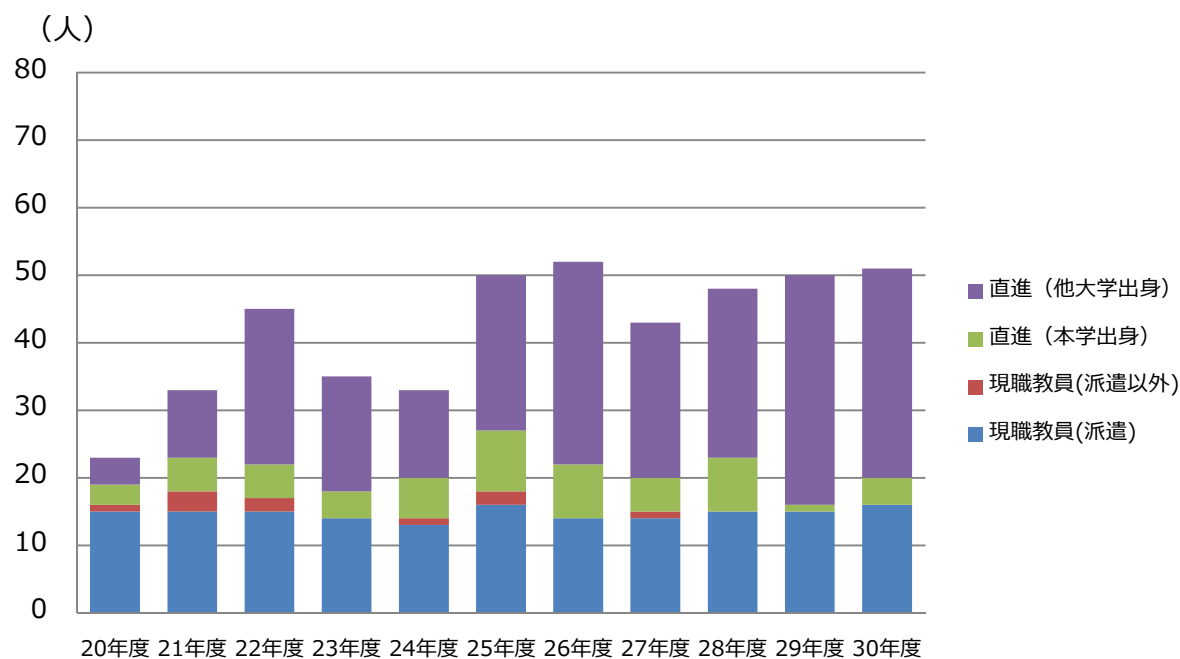


図1-1 教職大学院入学者数

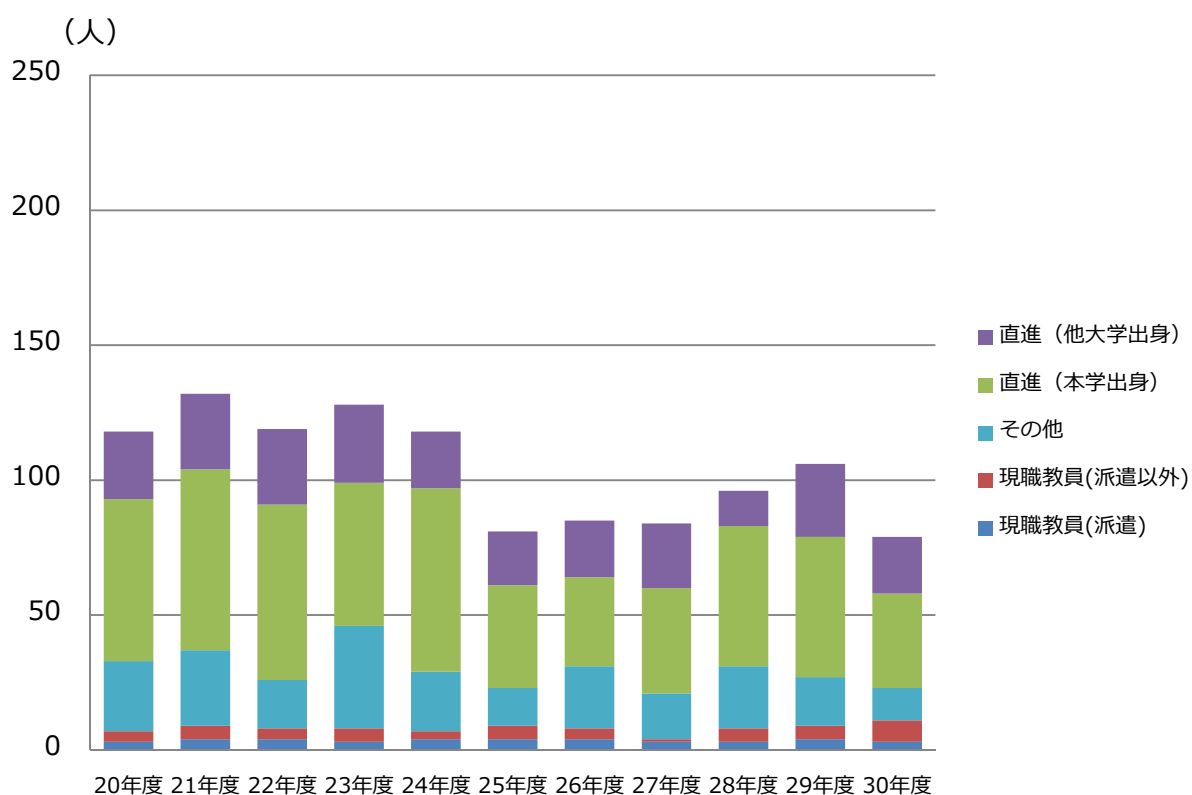


図1-2 修士課程入学者数

②志願者数の推移

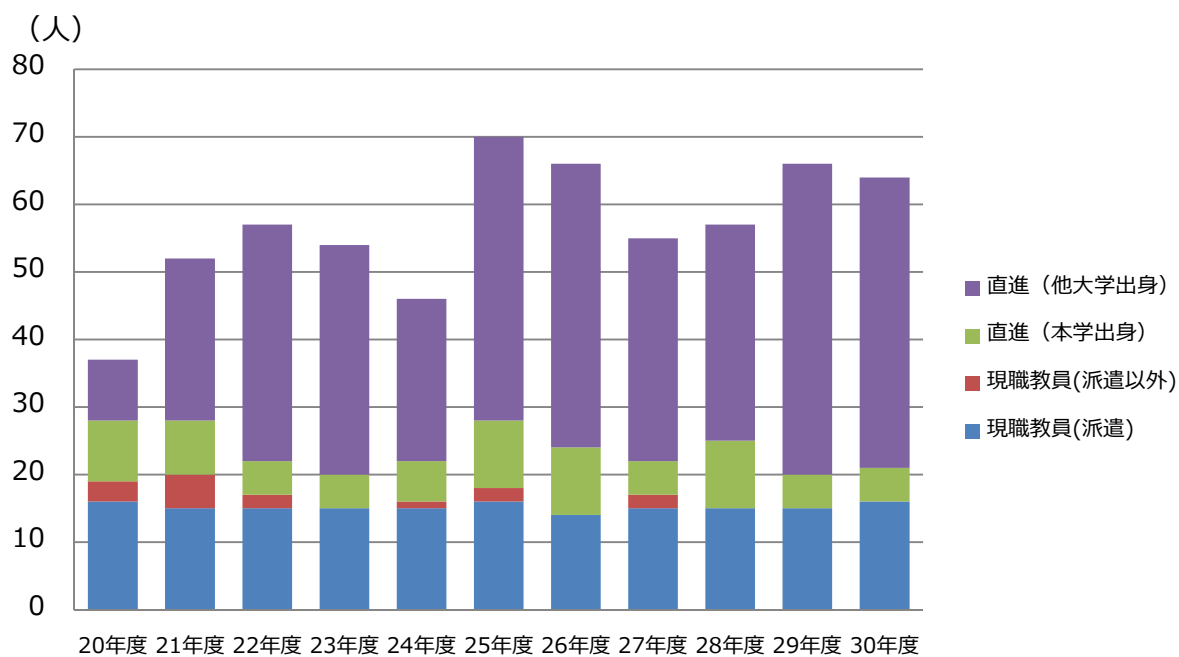


図1－1 教職大学院志願者数

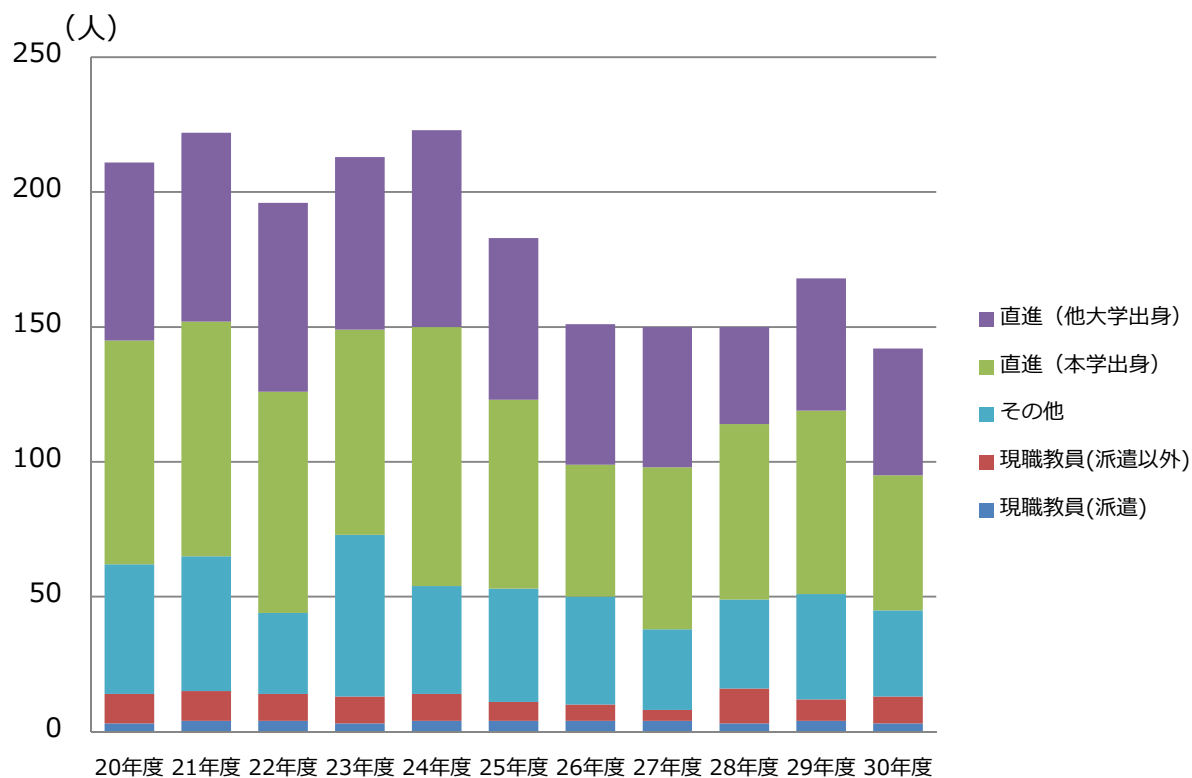


図1－2 修士課程志願者数

愛知教育大学大学院入学者数

(表 1 - 1) 教職大学院入学者数

平成30年4月1日時点

人 年度	現職(派遣)			現職 (派遣以外)	ストレート		計
	愛知県	名古屋市	計		本学出身	他大学出身	
20年度	10	5	15	1	3	4	23
21年度	10	5	15	3	5	10	33
22年度	10	5	15	2	5	23	45
23年度	10	4	14	0	4	17	35
24年度	9	4	13	1	6	13	33
25年度	11	5	16	2	9	23	50
26年度	9	5	14	0	8	30	52
27年度	10	4	14	1	5	23	43
28年度	10	5	15	0	8	25	48
29年度	10	5	15	0	1	34	50
30年度	10	6	16	0	4	31	51
計	109	53	162	10	58	233	463

(表 2 - 2) 修士課程入学者数

平成30年4月1日時点

人 年度	現職 (派遣)	現職 (派遣以外)	直進			その他	計
			本学出身	他大学出身			
20年度	3	4	60	25	85	26	118
21年度	4	5	67	28	95	28	132
22年度	4	4	65	28	93	18	119
23年度	3	5	53	29	82	38	128
24年度	4	3	68	21	89	22	118
25年度	4	5	38	20	58	14	81
26年度	4	4	33	21	54	23	85
27年度	3	1	39	24	63	17	84
28年度	3	5	52	13	65	23	96
29年度	4	5	52	27	79	18	106
30年度	3	8	35	21	56	12	79
計	32	40	435	204	639	185	896

愛知教育大学大学院志願者数

(表 1 - 1) 教職大学院志願者数

平成30年4月1日時点

人 年度	現職(派遣)			現職 (派遣以外)	ストレート		計
	愛知県	名古屋市	計		本学出身	他大学出身	
20年度	11	5	16	3	9	9	37
21年度	10	5	15	5	8	24	52
22年度	10	5	15	2	5	35	57
23年度	10	5	15	0	5	34	54
24年度*	10	5	15	1	6	24	46
25年度	11	5	16	2	10	42	70
26年度	9	5	14	0	10	42	66
27年度	10	5	15	2	5	33	55
28年度	10	5	15	0	10	32	57
29年度*	10	5	15	0	5	46	66
30年度	10	6	16	0	5	43	64
計	111	56	167	15	78	364	624

*24年度より推薦入試導入、29年度より推薦枠変更(各学校2名→各学部2名)

(表 2 - 2) 修士課程志願者数

平成30年4月1日時点

人 年度	現職 (派遣)	現職 (派遣以外)	直進			その他	計
			本学出身	他大学出身			
20年度	3	11	83	66	149	48	211
21年度	4	11	87	70	157	50	222
22年度	4	10	82	70	152	30	196
23年度	3	10	76	64	140	60	213
24年度	4	10	96	73	169	40	223
25年度	4	7	70	60	130	42	183
26年度	4	6	49	52	101	40	151
27年度	4	4	60	52	112	30	150
28年度	3	13	65	36	101	33	150
29年度	4	8	68	49	117	39	168
30年度	3	10	50	47	97	32	142
計	33	78	616	503	1119	346	1576

2. 実績（5年間）に基づく入学見込数

現 行			
() ……入学定員			
現職教員含む。			
課程・専攻等	過去5年 平均入学者	留学生 (内数)	
◎ <u>修士課程 (100)</u>	90.2人	6.4人	
○発達教育科学専攻 (20)	17.2人	1.8人	
* 教育学領域	2.8人	0.2人	
* 教育心理学領域	1.2人		
* 幼児教育領域	2.6人		
* 生活科教育領域	3.2人	0.2人	
* 日本語教育領域	4.2人	0.8人	
* 情報教育領域	3.2人	0.6人	
○特別支援教育科学専攻 (5)	2.2人	0.2人	
○養護教育専攻 (3)	2.8人	0.2人	
○学校教育臨床専攻 (8) (臨床心理学コース)	12.0人		
○国語教育専攻 (5)	4.2人		
○英語教育専攻 (4)	2.4人		
○社会科教育専攻 (9)	8.2人	2.0人	
○数学教育専攻 (7)	4.4人	0.6人	
○理科教育専攻 (13)	11.6人	1.0人	
○芸術教育専攻 (14) (音楽分野／美術分野)	14.2人	0.4人	
○保健体育教育専攻 (6)	7.8人		
○家政教育専攻 (3)	1.0人	0.2人	
○技術教育専攻 (3)	2.2人		
◎ <u>専門職学位課程 (教職大学院) (50)</u>	48.8人	0.0人	
○教職実践専攻 (50)	48.8人		
* 教職実践基礎領域	33.8人		
* 教職実践応用領域	15.0人		

計	139.0人	6.4人
---	--------	------

改 組 後			
課程・専攻等	修士課程 から移行	教職大学院 から移行	計
◎ <u>専門職学位課程 (教職大学院) (120)</u>	71.8人	48.8人	120.6人
○教育実践高度化専攻	71.8人		
・学校マネジメントコース	0.0人		
* スクールリーダー育成系			
* ミドルリーダー育成系			
・教科指導重点コース	54.8人		
* 言語・社会科学系	15.8人		
* 理数・自然科学系	14.4人		
* 造形・創造科学系	24.6人	48.8人	
・児童生徒発達支援コース	11.0人		
* 生徒指導・教育相談系	3.8人		
* 幼児教育実践系	2.6人		
* 養護教育実践系	2.6人		
* 特別支援教育実践系	2.0人		
・地域・教育課題解決コース	6.0人		
* 外国人児童生徒支援系	3.4人		
* ICT活用・科学ものづくり推進系	2.6人		
◎ <u>修士課程 (30)</u>	18.4人	0.0人	18.4人
○教育支援高度化専攻	18.4人	0.0人	
・臨床心理学コース	12.0人		
・日本型教育グローバルコース	6.4人		

計	90.2人	48.8人	139.0人
---	-------	-------	--------

修士課程・教育学研究科 専攻別教員就職者数

修士課程 教育学研究科		H26年採用 (H25年度修了)			H27年採用 (H26年度修了)			H28年採用 (H27年度修了)			H29年採用 (H28年度修了)			H30年採用 (H29年度修了)			平均教員就職数	
		専攻内 計	領域別	現職	専攻内 計	領域別	現職	専攻内 計	領域別	現職	専攻内 計	領域別	現職	専攻内 計	領域別	現職		現職
発達教育科学専攻		12	-		8	-	(3)	8	-	(1)	12	-	(1)	12	-	(3)	10.4人	1.6人
養護教育専攻		3	-	(2)	2	-	(2)	1	-		2	-	(1)	3	-	(1)	2.2人	1.2人
特別支援教育科学専攻			-		2	-	(1)	1	-		1	-			-		0.8人	0.2人
学校教育臨床専攻		1	-			-			-			-		1	-		0.4人	
国語教育専攻	教育学	2	1		2			4	2					3	2		1.0人	
	内容学		1			2			2						1		1.2人	
英語教育専攻	教育学	4	3	(1)	1			2	1					1	1		1.0人	0.2人
	内容学		1			1			1								0.6人	
社会科教育専攻	教育学	13	9		5	3		1	1		12	6	(4)	1	1		4.0人	0.8人
	内容学		4	(1)		2						6					2.4人	0.2人
数学教育専攻	教育学	5	5	(1)	3	3		3	1	(1)	3	1		1	1		2.2人	0.4人
	内容学								2			2					0.8人	
理科教育専攻	教育学	6	4		8	3		8	4	(2)	3	2	(1)	11	3	(2)	3.2人	1.0人
	内容学		2			5			4			1			8		4.0人	
芸術教育専攻	教育学	11	4	(1)	7	2	(2)	8	2	(1)	5	1		8	3	(1)	2.4人	1.0人
	内容学		7	(1)		5			6			4			5		5.4人	0.2人
保健体育専攻	教育学	5	2	(1)	4	1		5	3		5	3		8	3	(1)	2.4人	0.4人
	内容学		3			3			2			2	(1)		5	(1)	3.0人	0.4人
家政教育専攻	教育学				1	1		1						1			0.2人	
	内容学								1						1		0.4人	
技術教育専攻	教育学				2			1	1		1			3	3	(1)	0.8人	0.2人
	内容学					2						1					0.6人	
修士課程全体		62		(8)	45		(8)	43		(5)	44		(8)	53		(10)	49.4人	7.8人

註：現職教員は内数。

教員就職に関する内訳	直進	現職	計
発達教育学等に関する領域	10.4	3.0人	13.4人
教育学に関する領域	13.2	4.0人	17.2人
内容に関する領域	17.6	0.8人	18.4人

3. 教職大学院に関するアンケート結果

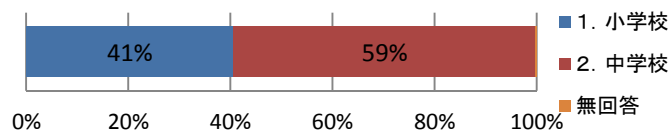
①公立学校現職教員

○対象：名古屋地区・尾張地区・三河地区から抽出した公立小学校及び中学校各3校（1月18日～1月31日実施）

○回答数：446人

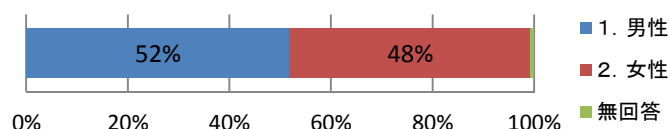
1-1: 所属校種

1. 小学校	181
2. 中学校	264
無回答	1



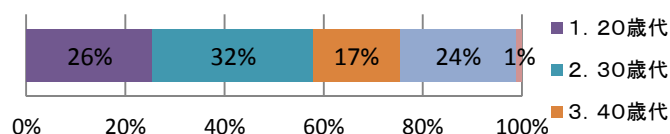
1-2: 性別

1. 男性	231
2. 女性	212
無回答	3



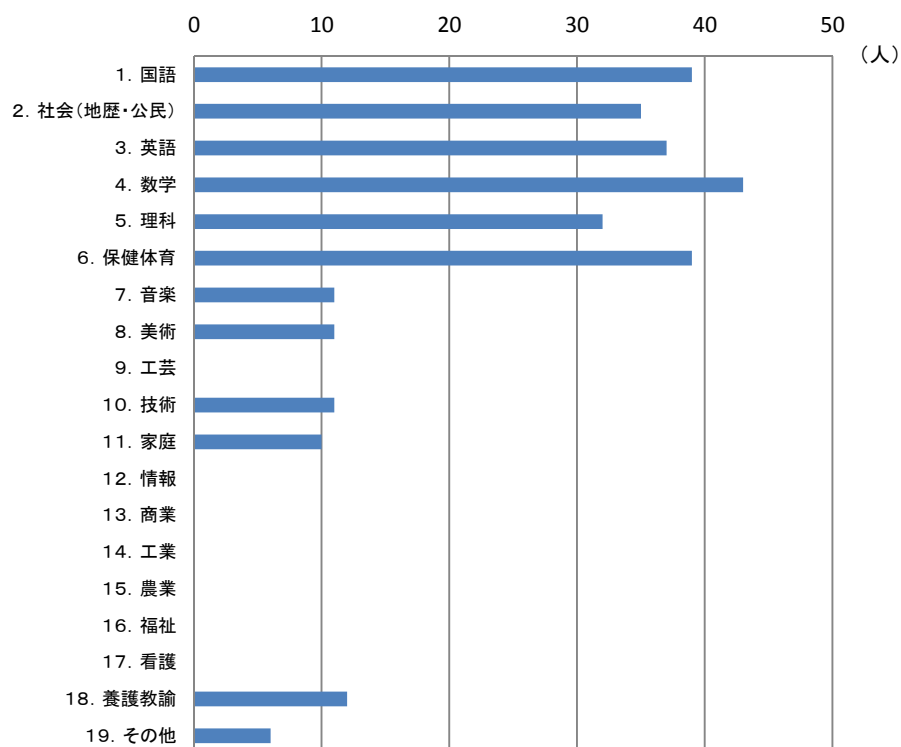
1-3: 満年齢

1. 20歳代	114
2. 30歳代	144
3. 40歳代	78
4. 50歳代	105
その他	5



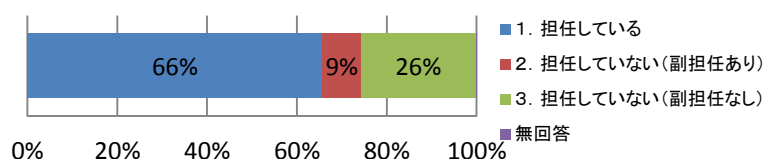
1-4: 担当教科・科目

1. 国語	39
2. 社会(地歴・公民)	35
3. 英語	37
4. 数学	43
5. 理科	32
6. 保健体育	39
7. 音楽	11
8. 美術	11
9. 工芸	0
10. 技術	11
11. 家庭	10
12. 情報	0
13. 商業	0
14. 工業	0
15. 農業	0
16. 福祉	0
17. 看護	0
18. 養護教諭	12
19. その他	6



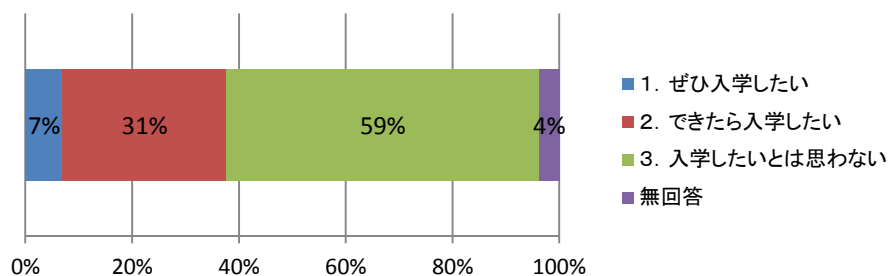
1-5: 学級担任

1. 担任している	293
2. 担任していない(副担任あり)	38
3. 担任していない(副担任なし)	114
無回答	1



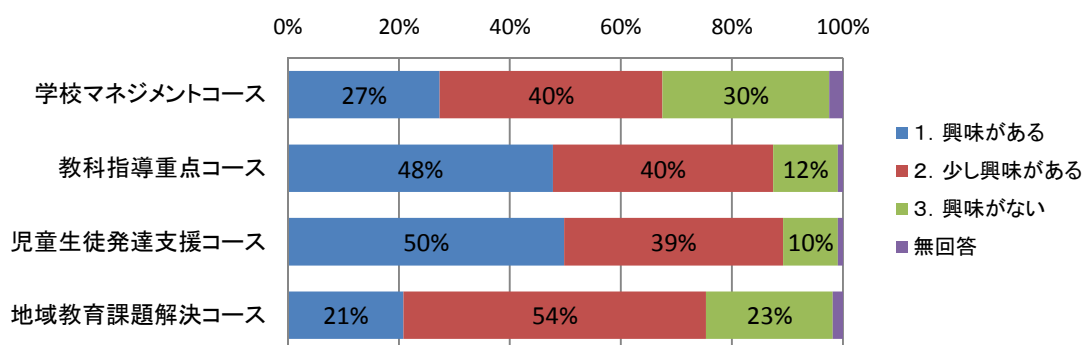
2:「新しい教職大学院」に入学したいか

1. ぜひ入学したい	31
2. できたら入学したい	137
3. 入学したいとは思わない	261
無回答	17



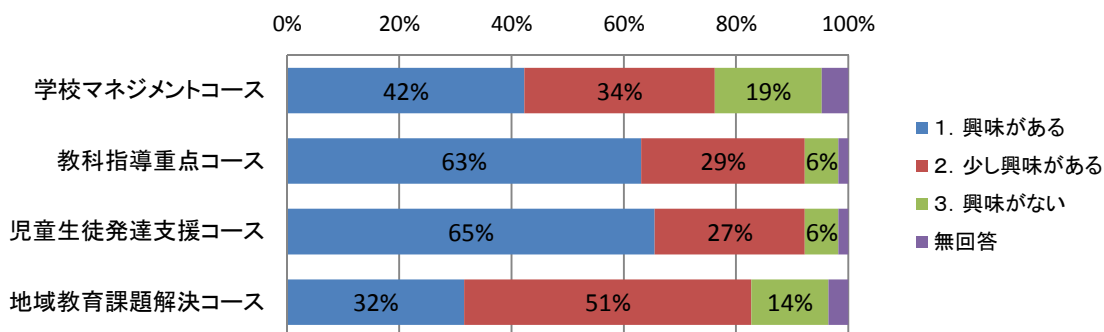
3:どのコースに興味があるか？

	1. 興味がある	2. 少し興味がある	3. 興味がない	無回答
学校マネジメントコース	122	179	134	11
教科指導重点コース	213	177	52	4
児童生徒発達支援コース	222	176	44	4
地域教育課題解決コース	93	243	102	8



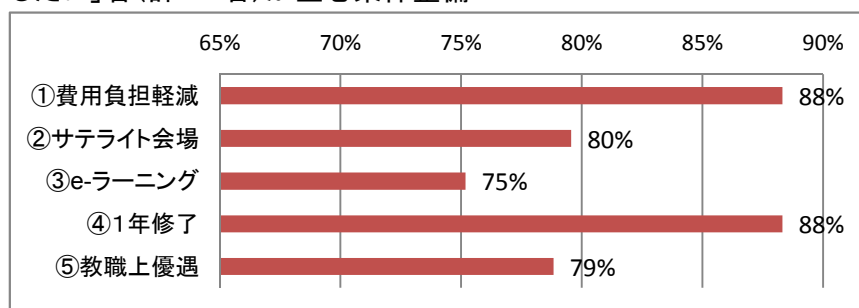
★ 2×3:教職大学院に「ぜひ入学したい」+「できたら入学したい」者(計168名)の各コースへの興味度合い

	1. 興味がある	2. 少し興味がある	3. 興味がない	無回答
学校マネジメントコース	71	57	32	8
教科指導重点コース	106	49	10	3
児童生徒発達支援コース	110	45	10	3
地域教育課題解決コース	53	86	23	6



4:教職大学院に「できたら入学したい」者(計137名)が望む条件整備

①費用負担軽減	121
②サテライト会場	109
③e-ラーニング	103
④1年修了	121
⑤教職上優遇	108



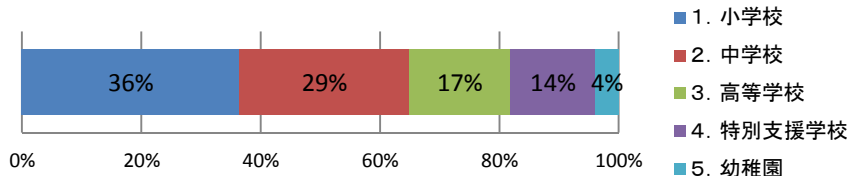
②附属学校教員

○愛知教育大学附属学校7校園（1月24日～1月31日実施）

○回答数：154人（対象者数：197人）

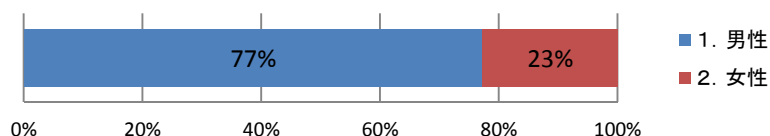
1-1:所属校種

1. 小学校	56
2. 中学校	44
3. 高等学校	26
4. 特別支援学校	22
5. 幼稚園	6



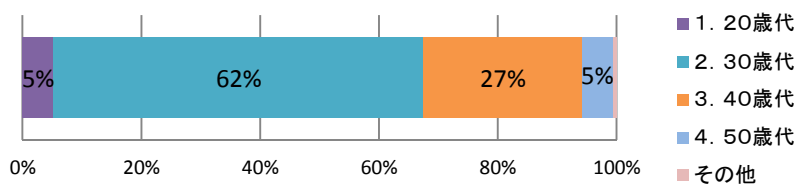
1-2:性別

1. 男性	119
2. 女性	35



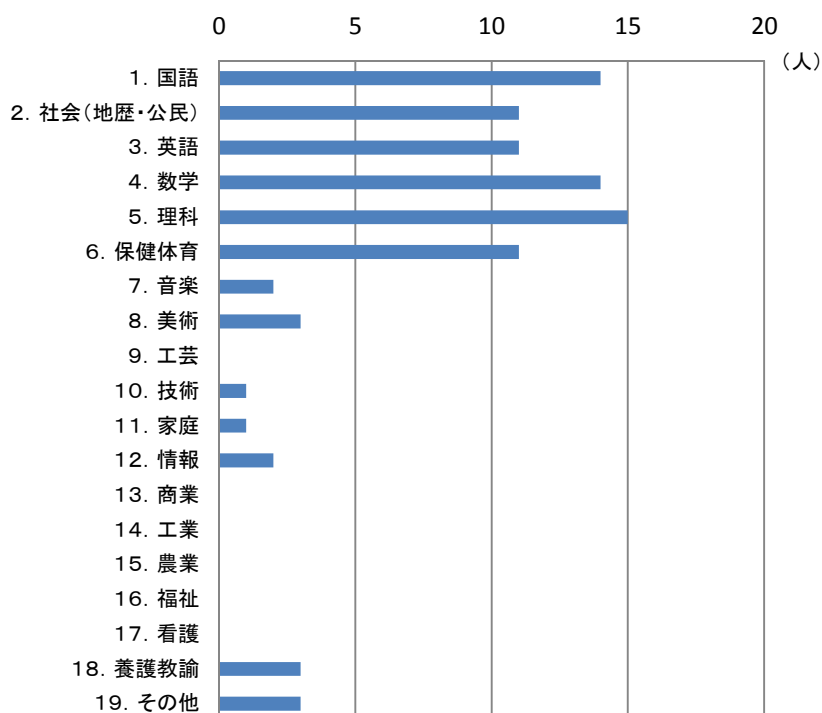
1-3:満年齢

1. 20歳代	8
2. 30歳代	96
3. 40歳代	41
4. 50歳代	8
その他	1



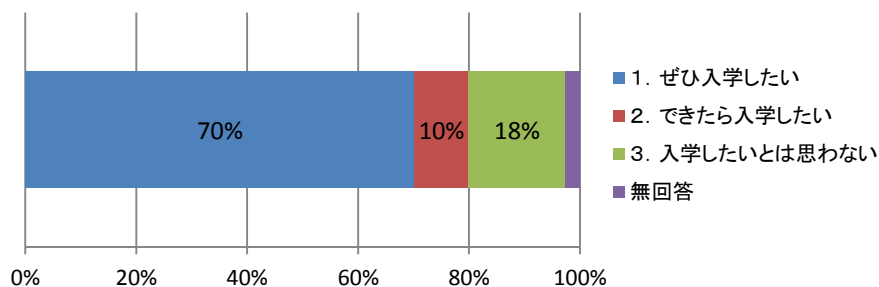
1-4:担当教科・科目

1. 国語	14
2. 社会(地歴・公民)	11
3. 英語	11
4. 数学	14
5. 理科	15
6. 保健体育	11
7. 音楽	2
8. 美術	3
9. 工芸	0
10. 技術	1
11. 家庭	1
12. 情報	2
13. 商業	0
14. 工業	0
15. 農業	0
16. 福祉	0
17. 看護	0
18. 養護教諭	3
19. その他	3



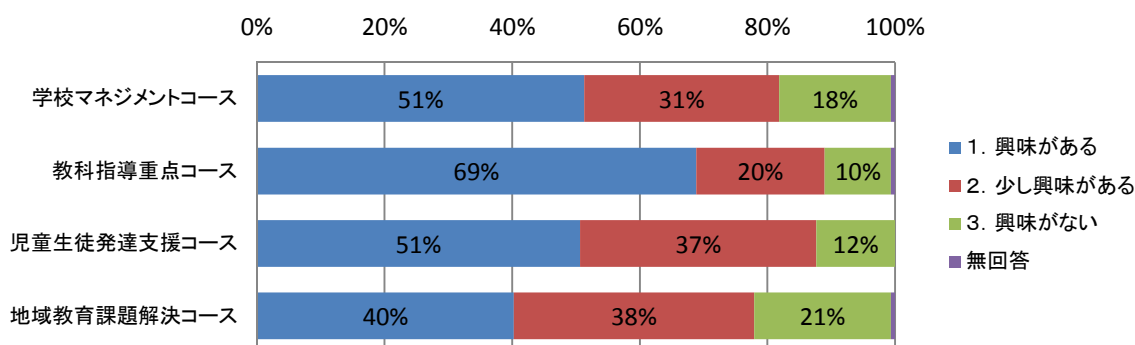
2:「新しい教職大学院」に入学したいか

1. ぜひ入学したい	108
2. できたら入学したい	15
3. 入学したいとは思わない	27
無回答	4



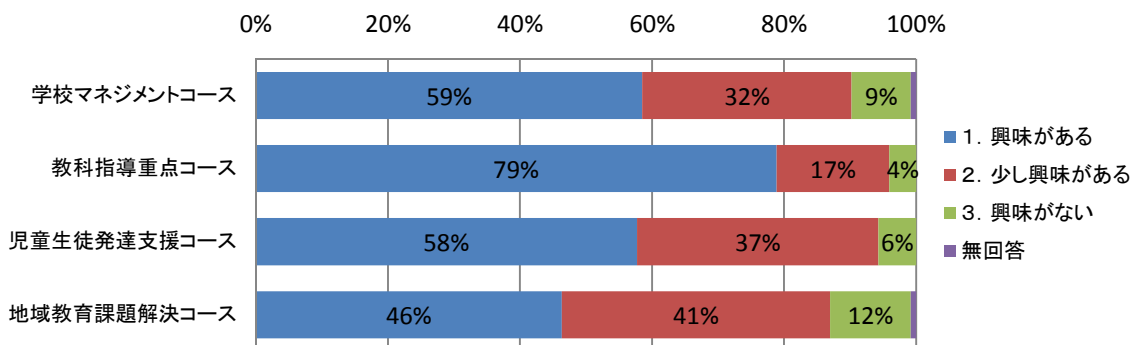
3:どのコースに興味があるか？

	1. 興味がある	2. 少し興味がある	3. 興味がない	無回答
学校マネジメントコース	79	47	27	1
教科指導重点コース	106	31	16	1
児童生徒発達支援コース	78	57	19	0
地域教育課題解決コース	62	58	33	1



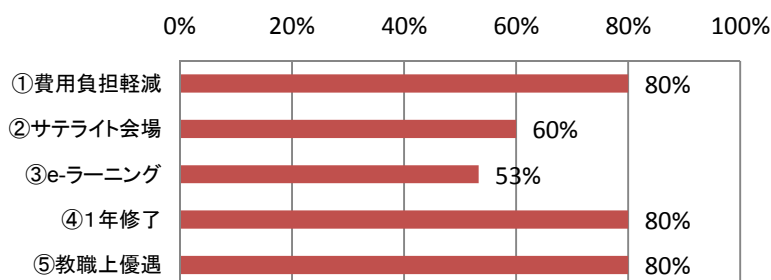
★ 2×3:教職大学院に「ぜひ入学したい」+「できたら入学したい」者(計123名)の各コースへの興味度合い

	1. 興味がある	2. 少し興味がある	3. 興味がない	無回答
学校マネジメントコース	72	39	11	1
教科指導重点コース	97	21	5	0
児童生徒発達支援コース	71	45	7	0
地域教育課題解決コース	57	50	15	1



質問3-4.教職大学院に、「できたら入学したい」(計15名)が望む条件整備

①費用負担軽減	12
②サテライト会場	9
③e-ラーニング	8
④1年修了	12
⑤教職上優遇	12



③学部3年生（新4年生）

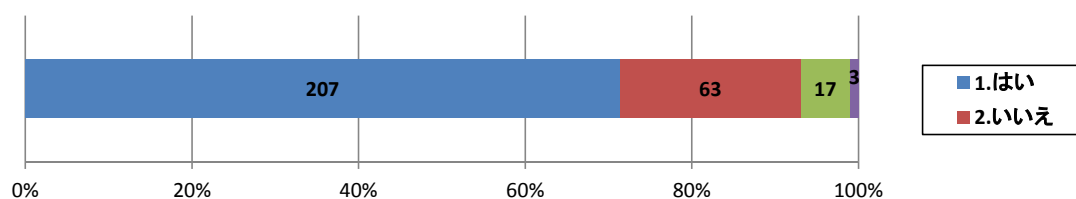
○対象：本学学部教員養成課程3年生（新4年生）の教務ガイダンス受講者（3月27日実施）

○回答数：290人（対象者704人）

質問1 あなたは、教員採用試験を受験する予定ですか

(人)

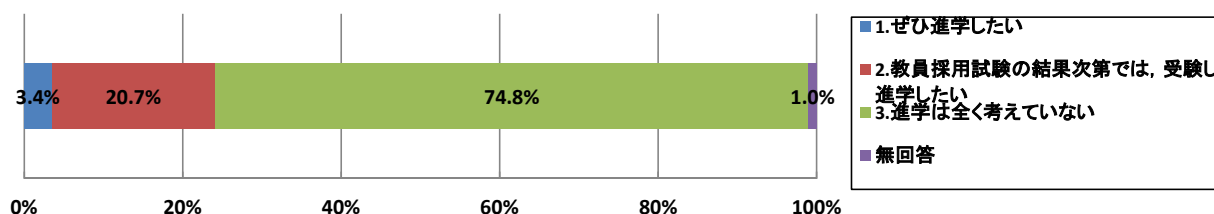
1.はい	207
2.いいえ	63
3.未定	17
無回答	3



質問2 「新しい教職大学院」に進学したいと思いますか

(人)

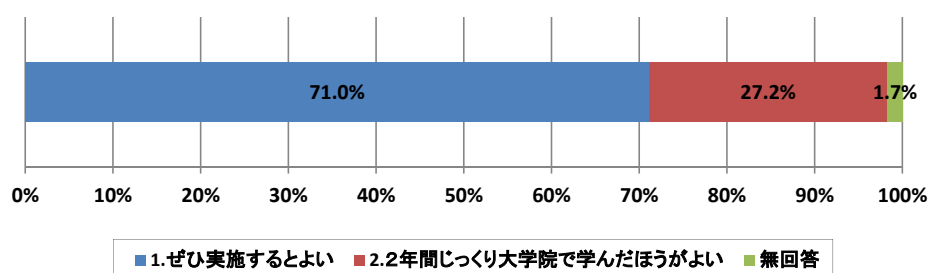
1.ぜひ進学したい	10
2.教員採用試験の結果次第では、受験し進学したい	60
3.進学は全く考えていない	217
無回答	3



質問3 「新しい教職大学院」では、4年生後期に集中講義等で教職大学院の単位を一部先取りすることで、大学院1年目に教採に合格した場合は、2年目移行は、教師となって休日や長期休業等を利用して学位を取得する制度も検討しています。これをどのように考えますか

(人)

1.ぜひ実施するとよい	206
2.2年間じっくり大学院で学んだほうがよい	79
無回答	5



愛知教育大学

学長 後藤ひとみ 様

愛知県教育委員会教育長



これからの学校現場に求められる人材を育成するための
愛知教育大学大学院への要望について

春陽の候ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から、本県の教育行政の推進に御協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、グローバル化、情報化の進展等、世の中が急速に変化する中であって、こうした状況変化を踏まえた新しい時代の教育に対応し、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育が学校で展開されるよう環境を整えていく必要があります。本県では平成28年2月に「あいちの教育ビジョン2020」を策定し、「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした「あいちの人間像」の実現を基本理念に、そのための県としての取組と施策を示しました。

一方で、近年、教職を希望する学生は減り続けるとともに、教員の大量退職・大量採用等の影響によって、年齢構成や経験年数の不均衡が生じ、従来の学校組織において自然に行われてきた先輩教員から若手教員への知識・技術等の伝承が困難となるなど、教員を巡る環境は深刻な状況にあります。

今後の課題として、教職をより魅力あるものとしていくことが必要であり、そのためには多忙化の解消とともに、教職生活の全体を通じた教員の資質・能力の向上が求められます。また、教員の養成・採用・研修の各段階において、大学と教育委員会が連携し、教員のキャリアステージに応じた学びや成長を促していく必要があります。本県では、平成29年11月に「愛知県教員育成指標」を策定し、キャリアステージに応じて、教員一人一人が発揮したい資質・能力を明確にするとともに、この指標に基づいて毎年度、教員研修計画を策定・実施することとしました。

ついては、貴学におかれましても、教職に対する強い思いを持ち、指導力に優れ、人間性豊かな人材の養成に、これまで以上に積極的に取り組んでいただくとともに、下記のようなこれからの学校現場に求められる人材を育成するため、貴学大学院における教育内容の一層の充実を図っていただきますようお願いいたします。

記

- 1 社会から尊敬・信頼される教員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し地域と連携して対応する教員、探求



力を持ち学び続ける教員の育成

- 2 教職に対する強い情熱と責任感を持ち、指導力に優れ、人間性の豊かな教員の育成
- 3 学校マネジメントに関する高度な専門的知識とマネジメント力を備えたリーダーとしての教員の育成
- 4 高度な専門的知識に基づいた実践力を備えた教員の育成
- 5 生徒指導やキャリア教育、個に応じたきめ細かな指導、特別支援教育、安全教育など、子どもたちの発達や成長を支える多様な取組を先導する教員の育成
- 6 現代的な教育課題である情報活用能力や愛知県における重要な課題である外国人児童生徒等の教育等、社会の変化に対応できる能力を備えた教員の育成
- 7 「チーム学校」として教員をサポートする学校職員（スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校事務職員）の中心的役割を担うことのできる人材（リーダー）の育成

担 当 教職員課（上野）

電 話 052-954-6768（ダイヤルイン）

FAX 052-954-6961

平成31年4月10日

愛知教育大学

学長 後藤 ひとみ 様

名古屋市教育委員会
教育長 鈴木 誠二



新しい大学院における要望について

平素より名古屋市の教育行政にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、学校や教職員を取り巻く状況については、知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展などの社会状況の大きな変化に対応するために「主体的で深い学びができる資質・能力の育成」や「学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメント」の実現等、新たな学習指導要領による教育の質の向上が求められています。

しかしながら、教員の大量退職・大量採用による年齢構成や経験年数の不均衡により、教員間の知識や技術の伝承が困難な状況です。

名古屋市教育委員会では、高度な専門的知識に基づいた実践力のある教職員の養成・育成のための方策として、貴学との連携に基づき教職員研修等を進める所存ではありますが、下記のとおり貴大学院における抜本的な強化を要望します。

記

○ 学び続ける教職員への対応

「夢に向かって人生をきり拓くなごやっ子」の育成を目指し、教育の取り巻く複雑・多様な現状に対して適切に対応していくためには、社会からの尊敬・信頼を受ける教職員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教職員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教職員が必要です。また、教職員生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要です。このような状況を勘案し、教職員が探究力をもち、学び続けることができるようにしていただきたい。

○ 新しい学習指導要領への対応

新しい学習指導要領では、目の前の子どもたちが次代を切り拓くために、教員がこれまでの教科教育等の実践や蓄積と向き合い、日々の学びがもっている大きな意味を子どもたちに伝え、学びの充実を図ることが求められています。このような状況を勘案し、教員には、より高度な専門的知識に基づいた実践力が身に付くようにしていただきたい。

○ 教職大学院における教科領域への対応

新しい学習指導要領では、子どもたちに必要な資質・能力を育んでいくためには、各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にした上で、教科等を越えたつながりが期待されています。このような状況を勘案し、従来の修士課程ではなく、実践力を高度化する教職大学院において教科領域の改編に取り組んでいただきたい。

○ 発達の段階や子どもの学習課題等への対応

子どもたちの資質・能力の育成に当たっては、子ども一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要です。このような状況を勘案し、各学校における、生徒指導やキャリア教育、個に応じた指導や、特別支援教育、日本語の能力に応じた支援など、子ども一人一人の発達や成長を支える多様な取組を先導する人材の育成に取り組んでいただきたい。

○ 今日的教育課題や地域固有課題への対応

子どもが社会の変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成することが求められています。このような状況を勘案し、教員には、現代的教育課題である情報活用能力や日本語指導を必要とする児童生徒等の課題に対応できる能力向上に取り組んでいただきたい。

○ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校事務職員のリーダー育成への対応

本市においては、学校において教員だけでは十分に解決することのできない課題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校事務職員などの役割がますます大きくなってきています。「チーム学校」として教員をサポートする体制強化のためにも中心的役割を担うことのできる人材が求められており、高度な専門的知識に基づいた実践力の育成に取り組んでいただきたい。

○ グローバル人材の養成への対応

本市においては、「ナゴヤ子ども応援大綱」に基づいて、グローバル社会で活躍できる人材の育成を促進しています。

貴学におかれても、積極的に外国人留学生を受け入れ、市内の学校において、子どもたちとの交流を積極的に実践していただきたい。

愛知教育大学の「新しい教職大学院」構想に関するアンケート（現職者用）

＜アンケートのお願い＞

日頃より愛知教育大学の教育研究にご理解とご支援を頂き感謝申し上げます。このアンケートは、本学が2020年度開設を予定している「新しい教職大学院」について、先生方のご意見をうかがうものです。概要は別紙をご覧ください。

現在文部科学省は、教員の基礎資格を「修士レベル」へ移行させ、「専修免許状（大学院修了者が取得できる教員免許状）」を持つ教員を増やしていくことを提起しています。今後の教員養成において中核的役割を担うのが教職大学院であり、現在、国立大学法人を中心に新設が相次ぎ、全国に拡大しています。本学にも、地域の教育ニーズを十分に踏まえ、教育委員会や学校現場との緊密な連携の下で教員養成の質の向上に務めることが期待されています

本学教職大学院（通常の修業年限は2年）には以下のような特徴があります。

- 学校マネジメントコースに加え、教科指導、幼児・養護・特別支援教育など教員養成に関わる全ての分野を教職大学院に移し、多様な学びに応えます。
- 発達障害、貧困・児童虐待、日本語教育、科学ものづくり教育、ICT活用、地域連携コーディネーター育成など、新たな教育課題や地域ニーズに応えます。
- 4年間で在籍可能な長期履修制度、1年間で修了できる早期修了制度など学びやすい仕組みを整えます。
- 夜間開講、土日の開講、長期休暇（夏・冬休み）中の開講を行い、在職のまま学べる体制を作ります。
- サテライト会場、TV会議システム・スカイプ・eラーニングの導入などで、大学でなくても学べる仕組みを導入します。
- 現職教員用の経済支援を広げます。
- 愛知教育大学で取得可能な一種免許状のほとんどを専修免許状に切り替えることが可能です。

本学の教職大学院は平成20年に創設され、以来150名を超える現職教員の方々が学び、県・市の教育界をリードしています。このような実績を維持しつつ、新しい教職大学院の設置を目指したいと考えています。

お忙しい中お手数をおかけしますが、アンケートへのご協力を宜しくお願いします。なお、アンケートは無記名で行い、統計的に処理されますので、回答結果が個人の不利益になることはございません。先生方のご協力とご理解を賜れば幸いです。

平成31年1月吉日 国立大学法人愛知教育大学教職大学院設置準備室

1. 先生の属性についてお聞きします。

質問1 以下の質問にお答え下さい。（各項目あてはまる番号1つに○）

（1）所属校種： 1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 特別支援学校 5. その他（ ）

（2）性別： 1. 男性 2. 女性

（3）満年齢： 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代

（4）担当教科・科目（中高の教員の方がお答え下さい。複数回答可）

1. 国語 2. 社会（地歴・公民） 3. 英語 4. 数学 5. 理科 6. 保健体育 7. 音楽
8. 美術 9. 工芸 10. 技術 11. 家庭 12. 情報 13. 商業 14. 工業 15. 農業
16. 福祉 17. 看護教諭 18. 養護教諭 19. その他（ ）

（5）学級担任： 1. 担任している 2. 担任していない（副担任：あり、なし）

2. 愛知教育大学が設置を計画している教職大学院「教育実践高度化専攻（仮称）」についてお聞きます。

質問2 別紙を見ていただき、あなたは以下のコースにどの程度興味がありますか？

（各コースあてはまる番号 1 つに○）

「教育実践高度化専攻（仮称）」は、教職専門性の高度化を目指し、「実践的指導力」、「教育課題解決力」、「地域固有課題対応力」をキーワードに、①「学校マネジメント」（現職教員用）と、②「教科指導重点」、③「児童生徒発達支援」、④「地域・教育課題解決」の4コースを設定しています。

		興味がある	少し興味がある	興味がない
教育実践高度化専攻（仮称）	①【学校マネジメントコース（仮称）】（現職教員用） 学校経営力・カリキュラムマネジメント力に長けたリーダーを育成するコース（スクールリーダー育成系、ミドルリーダー育成系）	1	2	3
	②【教科指導重点コース（仮称）】 教科の特性を生かした教材・授業開発力の育成をするコース（言語・社会科学系、理数・自然科学系、造形・創造科学系）	1	2	3
	③【児童生徒発達支援コース（仮称）】 発達段階に即した問題解決力の育成をするコース（生徒指導・教育相談系、幼児教育実践系、養護教育実践系、特別支援教育実践系）	1	2	3
	④【地域・教育課題解決コース（仮称）】 地域との連携協働による教育諸課題への対応力の育成をするコース（外国人児童生徒支援系、ICT活用・科学ものづくり推進系、地域連携コーディネーター育成系）	1	2	3

質問3 愛知教育大学にこの「新しい教職大学院」ができれば、入学を検討してもよいと思いますか？

（あてはまる番号 1 つに○）

1. ぜひ入学したい 2. できれば入学したい 3. 入学したいとは思わない

質問4 質問3で2、又は3. と答えた方にお聞きます。以下のような条件があれば、教職大学院に入学したいと思いますか。「はい・いいえ」のいずれかで教えてください。

	はい	いいえ
①奨学金や入学金・授業料減免などの制度があって、費用負担が軽減されれば、入学したい。	1	2
②アクセスのよい場所にサテライト会場ができるなど、通学しやすい環境があれば入学したい。	1	2
③e-ラーニングや・スカイプなどで開講される授業が整備され、勤務しながらでも受講できる環境が整備されれば、入学したい。	1	2
④1年で修了できる制度があれば、入学したい。	1	2
⑤教職大学院を修了することが、優遇されるような制度が整えば入学したい。	1	2

*アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

愛知教育大学の新しい教職大学院構想に関するアンケート（附属学校の皆様）

＜アンケートのお願い＞

日頃より愛知教育大学の教育研究にご理解とご支援を頂き感謝申し上げます。このアンケートは、2020年度開設を予定している教職大学院について、先生方のご意見をうかがうものです。改組の概略は別紙をご覧ください。

現在文部科学省は、教員の基礎資格を「修士レベル」へ移行させ、「専修免許状（大学院修了者が取得できる教員免許状）」を持つ教員を増やしていくことを提起しています。今後の教員養成において中核的役割を担うのが教職大学院であり、現在、国立大学法人を中心に新設が相次ぎ、全国に拡大しています。本学にも、地域の教育ニーズを十分に踏まえ、教育委員会や学校現場との緊密な連携の下で教員養成の質の向上に務めることが期待されています。

本学が構想する教職大学院（通常の修業年限は2年）には以下のような特徴があります。

- 学校マネジメントコースに加え、教科指導、幼児・養護・特別支援教育など教員養成に関わる全ての分野を教職大学院に移し、多様な学びに応えます。
- 発達障害、貧困・児童虐待、日本語教育、科学ものづくり教育、ICT活用、地域連携コーディネーター育成など、新たな教育課題や地域ニーズに応えます。
- 4年間在籍可能な長期履修制度、1年間で修了できる早期修了制度など学びやすい仕組みを整えます。
- 夜間開講、土日の開講、長期休暇（夏・冬休み）中の開講を行い、在職のまま学べる体制を作ります。
- サテライト会場、TV会議システム・スカイプ・eラーニングの導入などで、大学に来なくても学べる仕組みを導入します。
- 現職教員用の経済支援を広げます。
- 愛知教育大学で取得可能な一種免許状のほとんどを専修免許状に切り替えることが可能です。

本学の教職大学院は平成20年に創設され、以来150名を超える現職教員の方々が学び、県・市の教育界をリードしています。このような実績を維持しつつ、新しい教職大学院の設置を目指したいと考えています。

お忙しい中お手数をおかけしますが、下記のアンケートへのご協力を宜しくお願いします。なお、アンケートは無記名で行い、統計的に処理されますので、回答結果が個人の不利益になることはございません。先生方のご協力とご理解を賜れば幸いです。

平成30年1月吉日 国立大学法人愛知教育大学設置準備室

1. あなたの志望についてお聞きします。

質問1 以下の質問にお答え下さい。（各項目あてはまる番号1つに○）

（1）所属校種： 1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 特別支援学校 5. その他（ ）

（2）性別： 1. 男性 2. 女性

（3）満年齢： 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代

（4）担当教科・科目（中高の教員の方のみお答え下さい。複数回答可）

1. 国語 2. 社会（地歴・公民） 3. 英語 4. 数学 5. 理科 6. 保健体育 7. 音楽
8. 美術 9. 工芸 10. 技術 11. 家庭 12. 情報 13. 商業 14. 工業 15. 農業
16. 福祉 17. 看護 18. 養護教諭 19. その他（ ）

（5）学級担任： 1. 担任している 2. 担任していない（副担任：あり、なし）

2. 愛知教育大学が設置を計画している教職大学院「教育実践高度化専攻（仮称）」についてお聞きます。

質問2 別紙を見ていただき、愛知教育大学に新しい「教職大学院」ができれば、入学を検討してもよいと思いますか？（あてはまる番号 1 つに○）

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい 3. 入学したいとは思わない。

質問3 あなたは以下のコースにどの程度興味がありますか？（各コースあてはまる番号 1 つに○）

「教育実践高度化専攻（仮称）」は、教職専門性の高度化を目指し、「実践的指導力」、「教育課題解決力」、「地域固有課題対応力」をキーワードに、①「学校マネジメント」（現職教員用）と、②「教科指導重点」、③「児童生徒発達支援」、④「地域・教育課題解決」の4コースを設定しています。

		興味がある	少し興味がある	あまり興味がない	興味がない
教育実践高度化専攻（仮称）	①【学校マネジメントコース（仮称）】（現職教員用） 学校経営力・カリキュラムマネジメント力に長けたリーダーを育成するコース（スクールリーダー育成系、ミドルリーダー育成系）	4	3	2	1
	②【教科指導重点コース（仮称）】 教科の特性を生かした教材・授業開発力の育成をするコース（言語・社会科学系、理数・自然科学系、造形・創造科学系）	4	3	2	1
	③【児童生徒発達支援コース（仮称）】 発達段階に即した問題解決力の育成をするコース（生徒指導・教育相談系、幼児教育実践系、養護教育実践系、特別支援教育実践系）	4	3	2	1
	④【地域・教育課題解決コース（仮称）】 地域との連携協働による教育諸課題への対応力の育成をするコース（外国人児童生徒支援系、ICT活用・科学ものづくり推進系、地域連携コーディネーター育成系）	4	3	2	1

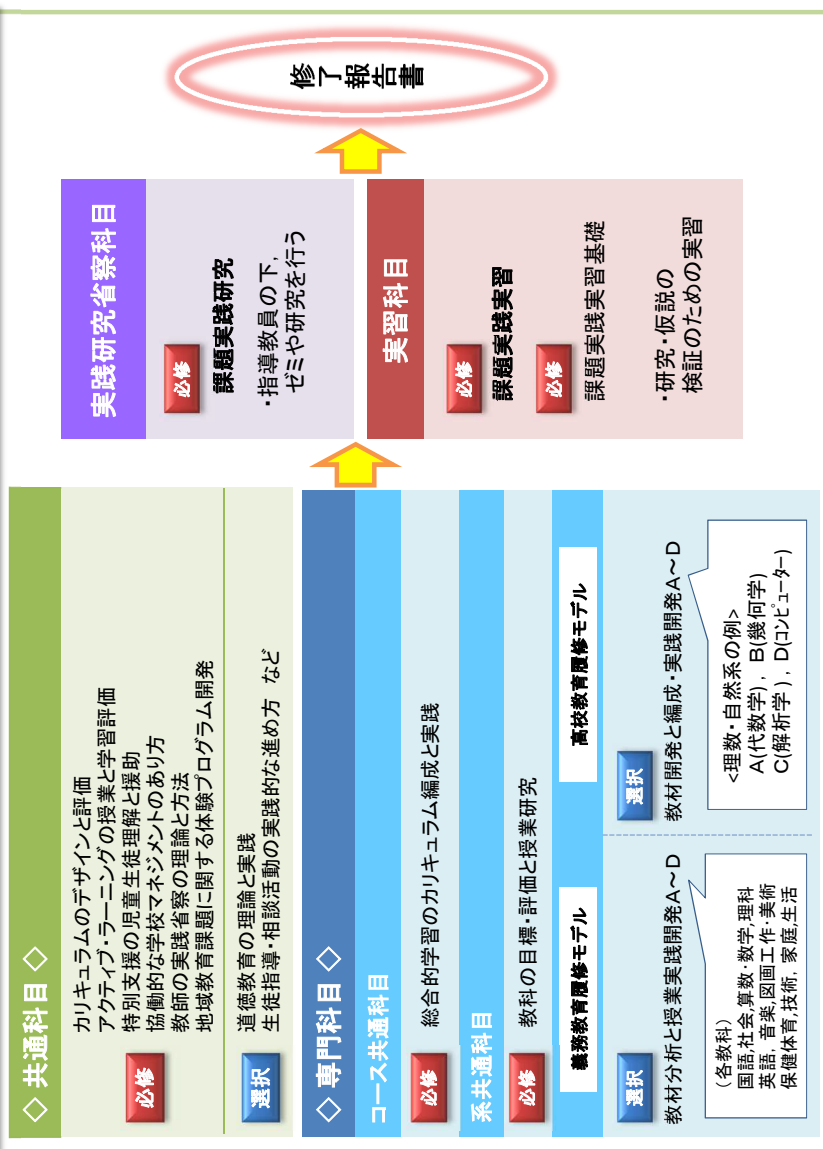
質問6 どのようなメリットや条件があれば、より前向きに愛知教育大学の教職大学院に進学することを考えられるか、以下の空欄にご自由にお書きください。

質問7 その他、愛知教育大学の教職大学院に関するご意見・ご要望等ありましたら、ご自由にお書きください。

*アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

- 体験重視フィールドワーク、グループセッション、ワークショップの実施
- 実践・省察による理論の検討
- 学校間連携、異職種連携の学習

カリキュラムイメージ（教科指導重点コース例）



- ◆ 校種毎の教科領域の充実
- ◆ 1年修了制度の導入
- ◆ 夜間、集中講義の開設、サテライト会場の設置、e-ラーニングの導入

※記載の事項については現在計画中のものであり、変更することもあります。

教育実践高度化専攻 取得学位：教職修士（専門職）

本専攻は、教員志望者・初任者・主任・管理職などの教職キャリアの各段階に応じたコースを設けています。授業実践力、生徒指導力、学級/学校マネジメント力、現代的教育課題及び地域教育課題解決力を身に付けることで、高度な専門的職業人を育成します。

学校マネジメントコース

- * スクールリーダー育成系
- * ミドルリーダー育成系

経験年数10年以上の教員を対象とし、学校経営力・カリキュラムマネジメント力に長けたリーダーを育成

教科指導重点コース

- * 言語・社会科学系
- * 理数・自然科学系
- * 造形・創造科学系

学校種に応じて教科の特性を生かした教材・授業開発力を育成

各系に義務教育履修モデル/高校教育履修モデルがあります。

児童生徒発達支援コース

- * 生徒指導・教育相談系
- * 幼児教育実践系
- * 養護教育実践系
- * 特別支援教育実践系

子どもの心身の発達を多面的に捉え、個に即した問題解決力を育成

地域・教育課題解決コース

- * 外国人児童生徒支援系
- * ICT活用・科学ものづくり推進系
- * 地域連携コード・イネーター育成系

地域の固有の教育課題の解決に向けて諸機関と連携協働する力を育成

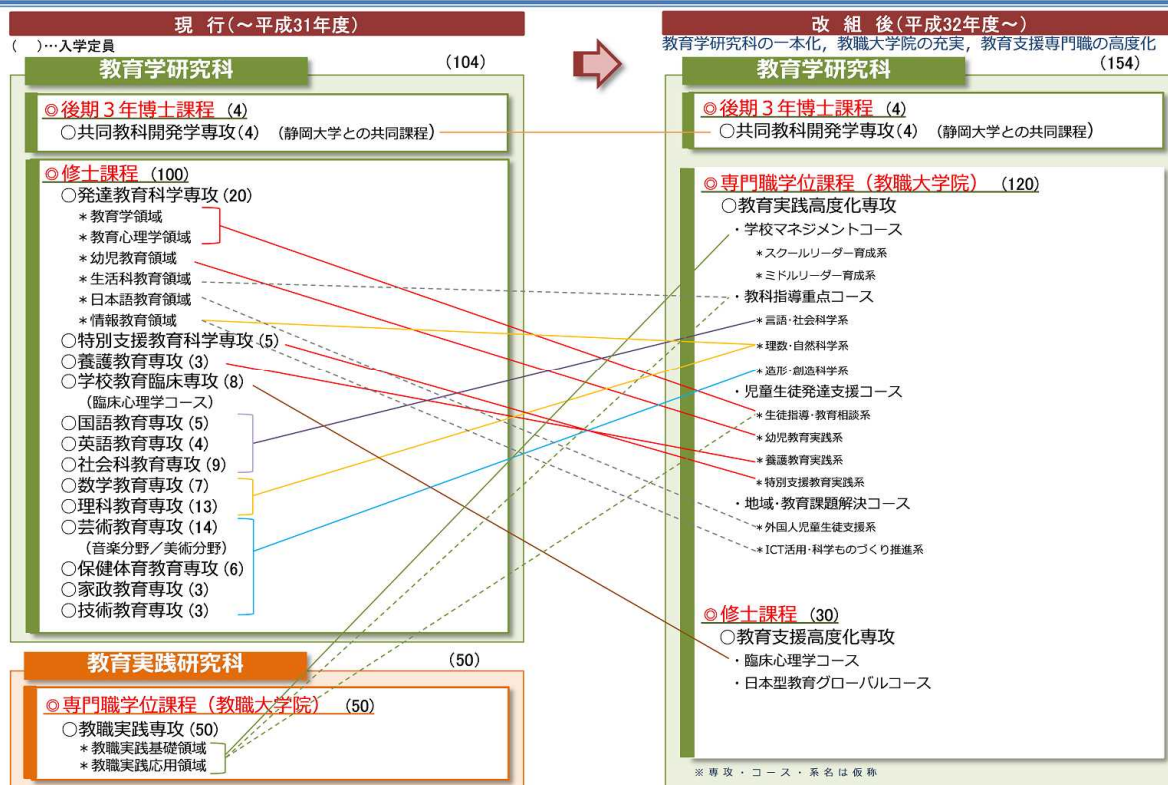
愛知教育大学の「新しい教職大学院」構想に関するアンケート

＜アンケートのお願い＞

改組を予定している大学院は、下図のように、現在の修士課程にある専攻の大半が教職大学院に移行します。
これまでの修士課程と同様に、本学教員がこの教職大学院の担当をします。



愛知教育大学 大学院改組の移行イメージ



この計画の実現に向けた、参考のために皆さんの意見をお聞きたいと考えています。下記アンケートへのご協力をお願いします。なお、無記名で行いますので、回答結果が個人の不利益になることはありません。ありのままの回答をお願い致します。

質問1 あなたは、教員採用試験を受験する予定ですか。（あてはまる番号1つに○）

1. はい 2. いいえ 3. 未定

質問2 愛知教育大学にこの「新しい教職大学院」ができれば、あなたは進学したいと思いますか？（あてはまる番号1つに○）

1. ぜひ進学したい
2. 教員採用試験の結果次第では、受験し進学したい
(採用試験の結果発表後にも募集がありますので、受験することが可能です。)
3. 進学はまったく考えていない

質問3 「新しい教職大学院」では、4年生後期に集中講義等で教職大学院の単位を一部先取りすることで、大学院1年目に教採に合格した場合は、2年目以降は、教師となって休日や長期休業等を利用して学位を取得する制度も検討しています。あなたはこれをどのように考えますか？（あてはまる番号1つに○）

1. ぜひ実施するとよい 2. 2年間じっくり大学院で学んだほうがよい

*アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。